

専門学校第三者評価 第三者評価報告書

学校法人 古武学園

高津理容美容専門学校

平成31年2月

一般社団法人専門職高等教育質保証機構

目次

I	評価結果	1
II	基準ごとの評価	2
	基準 1 目的・目標の設定および入学者選抜	2
	基準 2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性	6
	基準 3 職業実践専門課程の認定要件の適合性	10
	基準 4 内部質保証	12
	基準 5 学修成果	14

【参考資料】

対象学校から提出された自己評価書から転載

- I 現況および特徴（学校名、所在地、学生数および教員数、特徴）
- II 学校の目的・目標
- III 自己評価の概要

I 評価結果

高津理容美容専門学校は、専修学校設置基準および関係法令等に適合し、専門職高等教育質保証機構が定める評価基準を満たしています。

主な優れた点として、次のことが挙げられます。

- 美容科と理容科には「就職進学コース」（委託学生制度）が設置され、働きながら学ぶことができます。このコースは大阪発の「産学連携コース」に認定されています。
- サロンだけでなく、メーカーや団体との協力による実習、演習の成果は、コンテスト入賞など業界の高い評価につながっており、優れています。
- 卒業生がサロンで多く活躍し、学校への信頼も厚く、学校に様々な面で協力しています。
- 国内外で活躍する優秀な人材を数多く輩出していることが国際的に評価され、平成 27 年パリで開催されたインターコワフュールモンディアル (INTERCOIFFUREMONDIAL・世界美容家協会)主催の世界大会において、『Best World Academy』を受賞しました。

主な改善を要する点として、次のことが挙げられます。

- 数々の取組・努力にもかかわらず、入学定員の充足率が低く、定員を現実的な数字に変更することを含めた学校の将来展望が望まれます。特に、国際エステ・セラピスト専門学科および国際エステティック学科については、抜本的な対策が望まれます。
- 自己点検・評価や学校関係者評価等が実施されていることは確認できますが、それらを組織的、系統的に分析し、改善に資する体制・意識の構築が望まれます。
- 学校関係者評価委員会には、保護者・地域住民・高等学校関係者を委員として加えることが望まれます。
- 授業評価等、学生の意見を聴取・分析して、組織的に学修効果をあげる仕組みの構築が望まれます。

更なる向上が期待される点として、次のことが挙げられます。

- 将来（たとえば 10 年後）の創造的展望について、学内での議論を深めることを期待します。

II 基準ごとの評価

基準1 目的・目標の設定および入学者選抜

- 目的・目標が、適切かつ明確に定められており、その内容が職業実践的な教育に適したものとなっており、当該目的・目標が周知、公表されていること。
- 入学者受入方針が明確に定められ、それに沿った学生の受入が適切・公正に実施され、機能していること。
- 実入学者が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

【評価結果】 基準1を満たしている。

評価結果の根拠・理由

1-1 学校の目的・目標において、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等が、適切かつ明確に定められているか。

学校法人古武学園 高津理容美容専門学校は、美容科、理容科、国際エステ・セラピスト専門学科（いずれも2年制）、国際エステティック学科（1年制）が設置されています。美容科と理容科には通信課程（3年制）も設置されています。これらの学科のうち、美容科、理容科、国際エステ・セラピスト専門学科が、文部科学省より職業実践専門課程として認定されています。

「報徳：徳をもって徳に報いる」の基本理念に基づいて、綱領（校訓）を次のように定めています。

1. われらは 常に高き理想を持ち よりよき理容師美容師として その生涯を貫かんとす
1. われらは 勤儉譲の「報徳」の教えを実行し もってその理想の達成に邁進す
1. われらは 常に美を探求し 公衆衛生を重んじ もって社会の福利増進に寄与せんとす

学校の目的は、「教育基本法および学校教育法に従い、学校教育および専修学校教育を行うことを目的とする」と定めています。各学科の設置目的は、学則に定めています。創立の精神に基づいて教育理念を「理美容教育を通じて一人ひとりの将来を豊に拓こう」とし、社会的能力の開発に関わる教育を行い、学生の将来を豊かに拓くとともに、その業界に有意な人材を提供することにより、業界の発展を支え、社会・人々

に貢献することを使命（教育目標）としています。

1-2 学校の目的・目標が、構成員（教職員および学生）に周知され、社会に広く公表されているか。

目的・目標は、学生便覧、入学のしおり、学校パンフレット、Web ページ、教職員用冊子等に記載されています。

学生に対しては、新入生導入研修、毎週の合同朝礼、始業式、終業式等で、学校の方針を説明しています。保護者・関係者に対しては、授業参観、後援会等を通じて、方針を説明しています。教職員に対しては、理事長・校長から、新任教職員導入研修、職員会議、年初・期初講話、毎朝の朝礼等を通じて、経営方針・教育方針等の説明を行い、理解促進を図っています。

全学生対象に『報徳』の授業を通じて「こころ」の教育を取り入れています。『報徳』について勉強する会「報徳会」（会員 78 名：サロン経営者・社員 19 名、教職員 59 名）が実施されています（月 1 回）。「報徳：徳をもって徳に報いる」の基本理念が明確で、教職員・学生・社会に周知されており、優れています。

1-3 学校の目的・目標に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された入学者受入方針が明確に定められ、公表、周知されているか。

アドミッション・ポリシー（求める人材像）は、

- ① 本校の教育を深く理解し、実技・学科の学習意欲の高い人
- ② 理・美容、エステ等、卒業後就く職業に目的意欲がある人
- ③ 資格試験や検定を受験するに足る学力・能力と意欲のある人

と定められています。この入学者受入方針は、Web ページ、募集要項、学校パンフレット等に明記され、進学ガイダンスやオープンキャンパス等においても職員が説明を行い、公表、周知されています。

オープンキャンパスには、教職員だけでなく、受付から進行・体験教室・グループ面談等に、在學生と卒業生も参加しており、高校生は在學生の立場から見た学校生活と卒業後の姿を知ることができます。これは、在學生にとってもプレゼンテーション能力や接客対応力が向上するなど教育上の成果をあげることが期待されます。

1-4 入学者受入方針に沿った学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が、適切な実施体制により公正に実施されているか。

入学試験については、自己推薦（AO）入試、指定校推薦入試、推薦入試、一般入試があり、「入学試験に関する規則」等の学校規程に基づいて適切に実施されています。AO 入試については、アドミッション・ポリシーに同意できる学生を対象として、エ

ントリー用紙提出、書類選考および面接を実施しています。指定校推薦については、高等学校・中等教育学校の卒業見込み者のうち、評定平均 3.0 以上、欠席日数 20 日以内、推薦入試については、高等学校・中等教育学校卒業見込み者のうち、評定平均 2.7 以上、欠席日数 20 日以内の学生をそれぞれ対象としています。指定校推薦、推薦入試は、いずれも書類審査と面接を実施しています。一般入試は、学校教育法 90 条に該当する受験生を対象に、書類審査、面接、筆記試験（国語・作文）を実施しています。

美容科と理容科には「就職進学コース」（委託学生制度）が設置されており、このコース入学希望の学生は、就職進学受け入れ店舗での就職決定後、入学試験（推薦入試または一般入試）を経て、入学後働きながら学ぶことができます。このコースは、大阪発の「産学連携コース」に認定されており、優れています。

面接票は、AO 面接、指定校推薦、推薦一般、特待生をそれぞれ区別し、筆記テストについては、一般試験問題、特待生試験問題をそれぞれ準備しています。

1-5 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていないか。その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

入学定員に対する充足率は、理容科 44.58%、美容科 61.18%、国際エステ・セラピスト専門学科 16.67%、国際エステティック学科 10.83%（平成 28 年度～30 年度の 3 年間平均）となっています。オープンキャンパスのみならず、入学者の獲得を目的とした、エステ・ブライダルシェービング無料体験など在校生と各コースの授業を体験し、先輩とのふれあいの中で本学の魅力を感じさせる工夫、高校生のバス見学会の積極的な受入れ、スペシャル体験として教員や OB・OG スタイリストによるデモンストラーションなど体験内容に変化をもたせた取組なども実施しています。

教職員による進学ガイダンスや高校訪問を通じての広報活動の一方で、ホームページ・ツイッター・インスタグラム・ライン・フェイスブックなどの Web 広報の利用も推進しています。高津ヘアフェスティバル（学生、卒業生、一般理・美容師が参加するコンテストやヘアショーで、1,600 名が集まる学校最大のイベント）を夏期休暇期間に実施することによって、高校生の誘致に努め学校の魅力を積極的に発信しています。

入学部では、新入生に対し入学に関するアンケートを実施し、その結果を分析して新入生誘致の改善に努めています。

このような数々の取組・努力にもかかわらず、入学定員の充足率が低く、定員を現実的な数字に変更することを含めた学校の将来展望が望まれます。特に、国際エステ・セラピスト専門学科および国際エステティック学科については、抜本的な対策が望まれます。

以上の内容を総合して、「**基準 1**を満たしている。」と判断します。

【優れた点】

- 「報徳：徳をもって徳に報いる」の基本理念が明確で、教職員・学生・社会に周知されています。
- 美容科と理容科には「就職進学コース」（委託学生制度）が設置され、働きながら学ぶことができます。このコースは大阪発の「産学連携コース」に認定されています。

【改善を要する点】

- 数々の取組・努力にもかかわらず、入学定員の充足率が低く、定員を現実的な数字に変更することを含めた学校の将来展望が望まれます。特に、国際エステ・セラピスト専門学科および国際エステティック学科については、抜本的な対策が望まれます。

【更なる向上が期待される点】

基準2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性

- 専修学校設置基準および関係法令等の定める、教員資格、教員数、授業時数、校地校舎の面積、施設等に適合していること。
- 目的・目標に照らして、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準、授与される職業資格との関係において適切であり、当該職業分野の期待に応えるものになっていること。
- 教育組織および教育課程に対応した施設・設備ならびに図書、教育上必要な資料が整備され、有効に活用されているか。
- 学習を進める上での履修指導および学習相談・助言が適切に行われていること。
- 目的・目標を達成するために必要な管理運営のための組織および事務組織が整備され、機能していること。

【評価結果】 基準2を満たしている。

評価結果の根拠・理由

2-1 教員組織および職員組織の編制のための基本方針を有しており、それに基づいた教職員の採用および組織編制が行われているか。

組織編制の基本方針は、学校法人古武学園寄附行為細則（第4章職員組織）、高津理容美容専門学校就業規則（第1章総則）、学校法人古武学園組織規定（第2条および別紙 組織図）等に定められています。意思決定機関としての会議組織規程、職務分担、職務権限規程等も規定されています。

教職員の採用・任免基準は、学校法人古武学園寄附行為細則（第5章教職員の任免）、高津理容美容専門学校就業規則（第2章人事第1節採用）に定められており、専修学校設置基準および理容師・美容師養成施設指定規則が定めた資格を有する教員の採用を規定しています。

人事評価制度や給与に関する制度（昇給・昇格に関する基準や給与支給に関する規程）については、給与支給規程（第4章昇給および昇格）、給与支給細則に定められています。人事評価制度においては、評価項目・評価基準等を明確に定めた上で複数の評価者による人事評価に基づき適正に運営されています。教職員各個人のモチベーション向上および経営目標と個人目標の一体化を目的とした「K O Z U 成果目標制度」が導入されており、組織の活性化と教育内容の充実が図られています。

2-2 教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、専門分野に関し教育上の指導能力があると認められる専任教員が、関係法令が定める数以上置かれているか。

現在の教員数は、専任教員 50 名・兼任教員 50 名であり、専修学校設置基準および理容師・美容師養成施設指定基準に規定されている教員資格を有する専任教員が適正数以上確保されています。教員組織の運営においては、学科ごとに学科長を配置し学科内・学科間での情報共有に努め、各学科を統括する教務部には、各学科長等で構成する「教育課程企画課」を設置し、各学科の授業計画・研修企画などを企画・検討し教育水準の向上に努めています。

2-3 授業科目（課目）が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。教育課程の編成や教育内容が、学生の多様なニーズ、関係業界の発展動向、社会からの要請等を反映したものになっているか。

定期的の実技確認試験や学科模擬試験が、年間を通して実施されています。1 年次より行われる校内サロン実習室における学習および提携サロンでの店舗研修など現場での実習を通して、今後取り組むべき課題を把握させ、同時に職業理解を深める取組を行っています。教育課程に定められた科目以外に、業界で必要とされる実技技術を、産学連携の協力を受け、学生が興味を持ち将来の指針となるよう外部講師による授業として組み込み、就職へ繋がる取組を行っています。

ボランティア活動として、老人福祉施設や女性自立センターから要請を受け、本校教員とともにボランティアカットに参加しています。

理容科においては、近年エステサロンよりシェービングのできる女子学生の求人が増えてきたことを受け、2016 年 4 月にブライダルシェービング・エステ専攻コースを開設しました。国際エステ・セラピスト専門学科では、学内では実施の困難な授業と接客を学ぶ研修として、スパサロン「タラサ志摩」で海藻・海泥を使用した研修を行いました。

希望者によるヨーロッパ研修旅行は、ロンドンで SASSOON カットを学習、国際スパ研修など、国際的な美容体験をすることを目的に行っています。

2-4 学生の履修に配慮した適切な時間割の設定等がなされているか。ひとつの授業科目（課目）について同時に授業を受ける学生数が、授業の方法および施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられるような適当な人数となっているか。

1 年次のカリキュラムでは、学科課目を多めに配し、実技課目では基礎を中心に教

えています。後期から専門課目を加え、より高度な知識、技術の習得をめざしています。主として、固定教室での授業とし、レイアウトを変えて授業を行い、選択授業の際は科目別で教室移動をして同じ科目の学生が受講するように配慮しています。講義、実習共に板書およびモニター等で映像の使用やデモンストレーションなどにより説明を加えながら行っています。

2-5 学生の履修指導および学習相談・助言が、学生の多様性（履修歴や実務経験の有無等）を踏まえて適切に行われているか。

入学オリエンテーションを行い、スムーズに学業に取り組めるよう指導しています。選択授業科目の履修については、入学前の説明に加え、美容科ではヘアデザイン・メイク・ネイル・エステ・ブライダル、理容科では女子に向けてシェービングエステ、それぞれ案内を行っています。クラス担任は、入学後に面談を行い、クラス日誌で状況を確認し、随時学年主任・教務部長・教頭に相談できる体制が整備されています。

個人面談・保護者面談が必要に応じて行われ、無断欠席については、保護者に連絡をしています。年に一度参観日を開催し、面談希望の保護者に対応し、問題があると思われる学生には、参観日の来校を呼びかけています。

就職については、希望調査票に基づいて、担任が面談を重ね、就職オリエンテーション（2年生4月中旬）、参観日（5月）には、学生・担任・保護者の三者面談を行う場合もあります。

以上のように、学生の多様性を踏まえた履修指導、学習相談・助言が適切に実施されていると判断します。

2-6 教育課程に対応した施設・設備（図書、視聴覚資料その他の教育上必要な資料を含む）が整備され、有効に活用されているか。

校舎は1号館から8号館まであり、同科同学年の学生が同じ館内で授業が受けられるように配慮し、実習設備も各館に整備されています。特に、国際エステティック実習室には充実した設備が整っています。

図書室には、美容、美術に関連する図書・雑誌等が整い、学生が自由に見ることができます。

2-7 学生支援の一環として、学生がその能力および適性、志望に応じて、主体的に進路を選択できるように、必要な情報の収集・管理・提供、ガイダンス、指導、助言が適切に行われているか。

学生は、就職指導室にある求人票等によって、就職先の情報を得て、適宜教員に相

談できる環境が整備されています。就職指導については、担任が責任を持っており、個別面談等で各学生に応じた適切な指導・助言が行われています。就職指導室には担当者が常駐し、外部支援団体および企業訪問を通して業界の動向を把握し、就職オリエンテーション等により学生を指導し、情報を担任と共有して就職指導が行われています。

高津 OB 会総会（毎年 3 月）では、卒業生との交流を深め、教育および就職指導に関する評価を行っています。就職指導室担当者によるサロン訪問により、卒業生と交流し、就職先企業に定着するための卒業後の支援も行われています。

2-8 特別な支援が必要と考えられる者への学習支援、生活支援等の実施体制が整備されているか。

特待生制度が整備されており、次の 3 種類の学費支援が実施されています。

- ① 授業料支援制度：第 1 期 6 ヶ月間の授業料を半額免除（30 名）
- ② 2 年次へ進級時 教育支援制度：進級時 教材費として 10 万円を支援（30 名）
- ③ コンテスト費用支援制度：決勝大会出場者全員およびモデルの交通費・宿泊費負担、全国大会出場者全員の材料等一部支援

学生寮として、新大阪報徳寮、国分報徳寮、カサ デ パオの三寮が整備されており、自宅通学困難な学生の生活支援をしています。（近年の寮生卒業者は、2016 年 42 名、2017 年 45 名、2018 年 42 名）

以上の内容を総合して、「**基準 2 を満たしている。**」と判断します。

【優れた点】

【改善を要する点】

【更なる向上が期待される点】

基準3 職業実践専門課程の認定要件の適合性

- 職業実践専門課程の各認定要件（教育課程編成委員会、企業等と連携した実習・演習、教育活動等に関する情報公開）に適合していること。

【評価結果】 基準3を満たしている。

評価結果の根拠・理由

3-1 教育課程編成委員会等の委員構成が適切であり、委員会が適宜開催され、その結果が教育課程の内容に反映されているか。（なお、教育課程の編成内容に関しては、基本的な観点 2-2～2-5 において評価する。）

教育課程編成委員会は、団体等の役職員 1 人、企業等の役職員 4 人、学内責任者 4 人、合計 9 人で構成され、年 2 回開催されています。

委員会の議論は、次のような教育課程の改善に反映されました。

28 年度には、入学時オリエンテーションで防災講習、各学年クラスでの防災訓練を実施しました。1 年生を対象に英会話・お花の授業を選択科目に加えました。美容科を中心に接客・レセプション等の講習会に参加しました。

30 年度には、理容科のブライダルシェービングの授業が合同授業から単独授業に変更、美容科のシャンプー・カラー・ユームアウトの時間を前期に多く取り入れました。

3-2 企業等と連携した実習・演習等が適切に実施され、教育課程の中で有効に機能しているか。

HFC プレステージジャパン合同会社ウエラプロフェッショナルのヘアカラー授業（1・2 年生対象）では、2 年計画で教員と企業による打ち合わせを行った上で、確認テストも行っています。

専攻ネイルでは、(有)プリアンファの協力でジェル商品を使った授業のほか、(株)ラグゼビューティーのボディジュエリー講習を実施し、最終試験でディプロマ取得まで取り組めるような内容となっています。専攻ブライダルでは、大成かつら店による花嫁かつらの結いあげ、様々なかつらの展示・説明、花嫁着付けまでのデモンストレーション、などを行っています。専攻ヘアデザインでは、(株)ナカノ製薬の指導協力によるパーマ実践理論と薬液の効果の理解のためパーマメントウェーブのチャート作成を行っています。就職進学クラスでは、(株)ケサランパサランの講師によるメイク

授業も実施しています。

以上のように、多くの企業と連携し、教育課程の中に有効に実施されており、優れています。

3-3 教育活動等に関する情報が、ホームページ等により適切に公表されているか。

教育活動に関する情報は、Web ページを通して配信をすることにより公表されています。その際、古武学園が定めた個人情報保護規定・情報機器管理規定に従って発信しています。

入学式から入学オリエンテーション・各行事・各コンテスト出場結果・特別講師を招聘しての全体授業などの取組も Web ページに掲載しています。在校生の活動の様子は、新聞「ライラックこうづ」を在校生・卒業生・就職関係サロン向けに発行しています（年2回）。入学前に高校や保護者に、学校の取組や沿革をまとめた冊子「保護者のみなさま・進路指導の先生方へ」を渡しています。また、高校生に学校行事に関する学校紹介記事を載せた DM を通して学生の活躍を発信しています。

以上の内容を総合して、「**基準 3 を満たしている。**」と判断します。

【優れた点】

- サロンだけでなく、メーカーや団体との協力による実習、演習が積極的に実施され、これが、コンテスト入賞など業界の高い評価（観点 5-1、p.14）につながっています。

【改善を要する点】

【更なる向上が期待される点】

基準4 内部質保証

- 教育の状況等について、自己点検・評価および企業と連携した学校関係者評価が定期的実施され、それらの結果に基づいて質の改善・向上を図るための体制が整備され、取組が行われており、機能していること。
- 教職員等に対する研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

【評価結果】 基準4を満たしている。

評価結果の根拠・理由

4-1 学生受入の状況、教育の状況および成果や効果について、自己点検・評価および学校関係者評価が適切かつ組織的に行われているか。その際、学生からの意見、学外関係者の意見や専門職域に係わる社会のニーズが、自己点検・評価および学校関係者評価に適切な形で反映されているか。

自己点検・評価および学校関係者評価は定期的実施されています。学校関係者評価委員は、企業等評価委員5名、卒業生か6名、合計11名の委員によって構成され、学校関係者評価が定期的実施されています。学校関係者評価委員会には、保護者・地域住民・高等学校関係者を委員として加えることが望まれます。

自己点検・評価、学校関係者評価等の結果を組織的・系統的に分析し、改善に資する体制・意識の構築が望まれます。さらに、将来（たとえば10年後）の創造的展望について、学内での議論を深めることが望まれます。

財務については、資料がWebページに掲載されており、会計報告は監事より承認されています。

4-2 自己点検・評価および学校関係者評価の結果が学校内および社会に対して広く公開されているか。

自己評価結果、学校関係者評価報告書は、Webページの情報公開ページで閲覧できます。今後、Webページを整理し、情報公開がより見やすくなることを期待します（訪問調査時点において指摘した点は、その改善を確認しました）。

4-3 自己点検・評価および学校関係者評価の結果がフィードバックされ、教育の質の改善・向上のための取組が組織的に行われ、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的

な方策が講じられているか。

就職先サロンにアンケートを取り卒業生の技術・接客・到達度が業界で求められる基準に適しているか調査を行い、委員会に提出して評価および教示を受け、サロンで活躍する卒業生に授業依頼をする、など教育課程の内容に反映し、このような授業は学生アンケートで好評を得ています。

4-4 企業等と連携した組織的な教員研修（ファカルティ・ディベロップメント）および職員研修（スタッフ・ディベロップメント）が適切に実施され、それらが教育の質の改善・向上に有効に機能しているか。

教員は、日本理容美容教育センターが行う認定資格を取得するとともに、外部講師による着付け講習を受講しています。各専攻担当教員は、外部企業開催の講習を受講し、授業に反映させています。高津美容研究会（月1度）、後援会主催の講習（年数回）等への参加によって、業界のトレンドを吸収してキャリア教育指導に活かしています。

教職員研修では、教育理念である「報徳」に関して月例会に参加し、教職員の理解を深め、学生の教育の土台を強化しています。外部企業による教職員研修を通して組織を強化し、教育力を向上させています。そのほか、授業カリキュラムやシラバス検討会を行い、授業内容の充実度をあげる工夫をしています。

以上の内容を総合して、「**基準4**を満たしている。」と判断します。

【優れた点】

【改善を要する点】

- 自己点検・評価や学校関係者評価等の評価活動が実施されていることは確認できますが、それらを組織的、系統的に分析し、改善に資する体制・意識の構築が望まれます。
- 学校関係者評価委員会には、保護者・地域住民・高等学校関係者を委員として加えることが望まれます。

【更なる向上が期待される点】

- 将来（たとえば10年後）の創造的展望について、学内での議論を深めることが望まれます。

基準5 学修成果

- 目的・目標において意図している、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、学修成果があがっていること。
- 当該職業分野の期待に応える職業実践的な学修成果があがっていること。

【評価結果】 基準5を満たしている。

評価結果の根拠・理由

5-1 単位修得、修了状況、資格取得の状況等から判断して、意図している学修成果があがっているか。

理美容師資格国家試験では、実技・学科ともに、受験対策を行い、技術進捗、成績に応じた対策を取り、全員合格をめざした指導を行っています。その結果、過去3年間の国家試験合格率は、理容師について30年100%、29年88.9%、28年93.3%、美容師について30年95.9%、29年98.7%、28年98.8%と、いずれも全国平均合格率を大きく上回っています。エステのCIDESCO国際資格についても、技術チェックやレポート作成の指導、認定試験の受験対策を行っている結果、2年エステ専攻の学生は、2015生、2016生とも、全員合格しています。

各種コンテストは、常勤教員のほか、外部講師の指導も取り入れ、技術力向上の支援をした結果、全国理容美容学生技術大会7年連続金賞受賞、AGコンテストワインディング1年金賞、大阪地区大会クラシカルバックバリエーション優秀賞など、入賞実績をあげてきました。

学校全体では、国内外で活躍する優秀な人材を数多く輩出していることが国際的に評価され、平成27年パリで開催されたインターコワフュールモンディアル（INTERCOIFFUREMONDIAL・世界美容家協会）主催の世界大会において、Best World Academyを受賞しました。[過去の日本の受賞校は、ハリウッド美容専門学校（2011年）、山野美容専門学校（2012年）、資生堂美容技術専門学校（2014年）、高津理容美容専門学校（2015年）、国際文化理容美容専門学校（2017年）]

以上から、意図している学修成果があがっていると判断します。

5-2 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

卒業生に対してアンケート（授業評価や満足度評価）が実施され、その結果は教職

員で共有されていますが、その分析は組織的に行われていません。在校生アンケートは、現時点（2018年末）では、実施されていません。

授業評価等、学生の意見を聴取・分析して、組織的に学修効果をあげる仕組みが望まれます。

5-3 修了後の進路の状況等の実績や成果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

卒業生が活躍するサロンで、技術面でも礼儀や生活態度・忍耐力などの精神面でも、学校と卒業生を信頼しているという意見がみられ、サロンが卒業生を優先的に就職させる傾向がみられます。就職希望者の就職率は100%です。

就職希望者はサロン研修を3回行い、1回目は担任や就職指導室の推薦するサロン、2回目は1回目とは異なるサロン、3回目は就職希望先サロン、と選択の幅を持たせています。

卒業生がサロンで多く活躍し、学校への信頼も厚く、学校に様々な面で協力しており、優れています。

Webページには、国内外で活躍する卒業生のインタビューが数多く掲載されていますが、卒業生の活躍状況やコンテスト実績のデータを収集・分析し、改善につなげることが期待されます。

以上から、意図している学修成果があがっていると判断します。

5-4 修了生や就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

卒業生の組織は、高津OB会・高津後援会・高津講師会と三つあり、授業支援、オープンキャンパス支援、サロン研修などの就職支援等、学校と深く関わっています。卒業生の意見には、高津出身の誇りと自信がみられます。

以上から、意図している学修効果があがっていると判断します。

以上の内容を総合して、「**基準5**を満たしている。」と判断します。

【優れた点】

- 卒業生がサロンで多く活躍し、学校への信頼も厚く、学校に様々な面で協力しています。
- 国内外で活躍する優秀な人材を数多く輩出していることが国際的に評価され、平成27年パリで開催されたインターコワフェールモンディアル

(INTERCOIFFUREMONDIAL・世界美容家協会)主催の世界大会において、『Best World Academy』を受賞しました。

【改善を要する点】

- 授業評価等、学生の意見を聴取・分析して、組織的に学修効果をあげる仕組みの構築が望まれます。

【更なる向上が期待される点】

- 卒業生の活躍状況やコンテスト実績のデータを収集・分析し、改善につなげることが期待されます。

【参考資料】

参考資料として対象学校から提出された自己評価書から、下記の項目について原則として原文のまま掲載します。

I 現況および特徴（学校名、所在地、学生数および教員数、特徴）

■学校名

学校法人古武学園 高津理容美容専門学校

■所在地

〒542-0073 大阪府大阪府中央区日本橋2丁目8-20

■学生数および教員数（評価実施年度5月1日現在）

衛生専門課程 理容科 学生数32人、常勤教員数4人、非常勤教員数25人

衛生専門課程 美容科 学生数546人、常勤教員数40人、非常勤教員数42人

衛生専門課程 国際エステ・セラピスト専門学科 学生数6人、常勤教員数4人、非常勤教員数6人

衛生専門課程 国際エステティック学科 学生数4人、常勤教員数4人、非常勤教員数6人

■特徴

本校は創立84年を誇る関西でも屈指の伝統校である。昭和9年1月に一瀬四郎氏・高田初氏により創立された「大阪文化理髪学校」の経営を昭和32年1月に古武隆郎が引き継ぎ、「私達の学校への入学者は、理容・美容の業が好きでたまらぬ者が入るのであるから、これらの生徒に、人間の生きる歓びと、大いなる希望の灯を与えてやらねばならぬ」（古武隆郎）との創立の精神に基づき教育内容や設備の充実を図るとともに、技術だけでなく「人を育てる学校」づくりを目指し、今日の「高津理容美容専門学校」の礎を築いた。

経営を引継いだ時は、学生数が理容部定員150名に対し47名、美容部定員100名に対し7名という状況からのスタートであったが、しだいに学生数も増えて現在までに本科（昼・夜間生）だけで4万人近い卒業生を社会に送り出してきた。

現在本校には2年制の衛生専門課程理容科・美容科・国際エステ・セラピスト専門学科と1年制の衛生専門課程国際エステティック学科の4学科があり、平成26年には理容科と美容科が、平成28年には国際エステ・セラピスト専門学科が文部科学大臣による「職業実践専門課程」の認定を取得している。

厚生労働大臣指定の理容師・美容師養成施設である理容科・美容科においては、昭和50年代半ばより「選択授業」の教育システムをスタートさせ、社会ニーズの変化にともなう理美容業界の高度化・多様化に対応できる専門的なスペシャリストを育ててきた。

エステティック関連の学科では平成2年からCIDESCO基準の教育をスタートし、平成12年に日本で最初のCIDESCO認定校となり多くのエステティシャン、スパセラピスト、アロマセラピストを育ててきている。

上記の本科の他に別科としての通信課程理容科・美容科では、ダブルライセンス取得を目指す理容師・美容師のための「修得者課程」（修業期間1年6月）を平成30年4月から新設している。

本校では理・美容教育が1年制であった時代から、「委託学生制度」や「選択授業」、2年制教育の先駆けとしての「高津アドバンスト・ビューティー専門学校」などの教育システムを時代に先駆けて開発し、魅力ある理容師・美容師を社会に送り出すとともに、「報徳」の教えにもとづいた笑顔、返事、挨拶、掃除など良き生活習慣を身につける教育を実践し続け、若い人々の継続の力を育ててきた。

そのような学校の教育を就学・教育・就職すべてに亘って支えてきたのがサロンオーナーで構成された「後援会」、「高津美容研究会(KBK)」等の支援組織である。

「後援会」「高津美容研究会(KBK)」には様々な支援とともに「教育課程の編成」への協力や「学校関係者評価」等を通じた職業教育のさらなる充実のために多大な協力もお願いしている。

「委託学生制度」とは、理・美容サロンで見習いスタッフとして働きながら学校で学び理容師・美容師を目指し、各自の給料で学費をまかない経済的にも自立できる教育システムであり、サロンと学校の2者が協力しながら最高の人育てを行うシステムでもある。最盛期には理美容合わせて100サロン以上が協力し、年間の委託学生数は300人を超えていた。現在も遠隔地からの入学希望者にとって魅力あるシステムとして支持を得ている。

また学校として、「理・美容師の成長を促す機会を提供したい」「理・美容業界がこれからも永続的に発展して行くためにできることは何か」「業界人同士の勉強と交流の場を提供したい」との思いから、高津講師会(業界で中心となって活躍している理容師・美容師)の講師による技術デモンストレーション等を会員理・美容師に対して、月1回学校内で実施する高津美容研究会(KBK)を昭和40年に発足させた。現在も継続して定期開催されており、約500名の会員が登録されている。

さらに高津美容研究会(KBK)での1年間の勉強の集大成の場として開催されることとなったのが高津ヘアフェスティバルである。昭和42年2月に第1回が開催され、時代に合わせて進化しながら半世紀以上の歴史を重ねてきた。今は学生と一般の

理容師・美容師向けのコンテストや学生、卒業生、高津講師会によるヘアショーが催されている。学生にとっては最大の学内コンテストであり技術力研鑽の場ともなっている。毎年、学生・出場者も含めて約1600名が来場し広く内外に「KOZU」を情報発信するイベントである。

創立84年の歴史と伝統の中で、高度な美容教育はもちろん、社会人としての礼儀作法やマナーの教育などいち早く取り入れ、国内外で活躍する優秀な人材を数多く輩出していることが国際的にも高く評価され、平成27年パリで開催されたインターコワフューールモンドリアル(INTERCOIFFUREMONDIAL・世界美容家協会)主催の世界大会において、『ベスト ワールド アカデミー』を受賞した。

Ⅱ 学校の目的・目標

本校の目的について、本校学則では「理容科・美容科は、学校教育法および理容師法ならびに美容師法に従い、衛生専門課程を置き、理容および美容に関する理論と技術を教授するとともに、人格の陶冶を図り、理容・美容両業界に必要とされる人材を育成する。また、衛生専門課程国際エステ・セラピスト専門学科、国際エステティック学科を設置し、それぞれの分野における衛生措置を含む正しい専門知識および技術の修得、豊かな美の表現を向上させるという社会の要望に応える」と定め、資格試験の合格と理容師・美容師としての技術の向上を目指すだけでなく、社会人としての礼儀作法やマナーを身につけた「人を育てる学校」であることを目的としている。

「人柄の良い美容師と腕の良い美容師では、人柄の良い美容師のほうが大成する」(古武喜美子)という表現で学生に伝え、ともすれば生まれてくる慢心をいさめ、常に向上心を持ち続けることがお客様の満足につながり、ひいてはサロンの繁栄にもつながっていく。技術だけでなく、そんな心構えを『プロの3要素 プラスワン』という言葉で学生に伝えている。

「プロには備えなければならない3つの要素がある。技術力と美的感性と接客力である。これらはプロとして表に現れる、いわゆる表現力であり、本校でも時間割に出ている学科や実技の授業がこれにあたる。一方この能力を心の底で大きく支えている力がある。広く人間力というが、やる気する気、気力体力、元気、明るさ、ねばり強さ、責任感、約束を守る、人に優しく接する、自らを厳しく磨く、奉仕の心、ビジネスマインド、金銭感覚など生活習慣に現れる力である。プロにだけ必要な力ではなく、また互いに矛盾するものもあるが社会的には大切な部分である。」と人間力の練成の重要性を教えている。

人間力練成の基本を“報徳”に置いており、報徳の実践は教科内容だけでなく、教員による生活指導や、朝礼、宿題、コンテスト、発表会といった学校生活すべての中に含んでいる。

綱領(校訓)

1. われらは 常に高き理想を持ち
よりよき理容師美容師として その生涯を貫かんとす
1. われらは 勤儉讓の「報徳」の教えを実行し
もってその理想の達成に邁進す
1. われらは 常に美を探求し 公衆衛生を重んじ
もって社会の福利増進に寄与せんとす

このような「こころの教育」は、技術だけでなく「“こうづ”の特色は人間教育にあり」との高い評価を受けている。

また、創立の精神「私達の学校への入学者は、理容・美容の業が好きでたまらぬ者が入るのであるから、これらの生徒に、人間の生きる歓びと、大いなる希望の灯を与えてやらねばならぬ」(古武隆郎)のもと、学生一人ひとりの夢の実現を助け、理美容職能教育を通じて一人ひとりの人生を社会的な幸福に導くことを目指しており、基本理念を『理美容教育を通じて一人ひとりの将来を豊かに拓こう』におき、教育の目標を『サロンでお役に立つ人材の育成』と定めている。

学園でも“報徳”を経営の基本理念とし、「まごころ教育 誠実経営」のもと、理・美容をはじめとした社会的能力の開発に関わる教育を行い、学生の将来を豊かに拓くとともに、その業界に有意な人材を育成し提供することにより、業の発展を支え、社会・人々に貢献することを学園の使命と考えている。

また上記使命実現のため、経営者を含む教職員全員の行動規範となる経営基本方針を以下の5項目に定めている。

- ① 人はその特性を見極め、一人ひとりを精いっぱい伸ばし、また自らも仕事の中に自己実現を行う
- ② 物は常に役立てられるよう整備し、永く大切に使う
- ③ 資金は計画性を持って、有用な部分に重点的に投資する
- ④ 情報は正しく、明確な目標をもって伝え、また吸収する
- ⑤ 働きは、真心の奉仕として表現し、責任をもって果たす

本校で学ぶ若い人々が、より高い専門能力を身につけ、社会で活躍し更に自己実現を目指してステップアップしてくれることを心より望み、教職員自らのレベルアップのためにC I活動の一環として昭和62年に「L I L A C宣言」を宣言した。

Leaders In Loveliness And Chic

(魅力的で洗練されたリーダー校を目指して)

Lilac の花ことば＝礼儀・親切・希望・成長

Lovely より魅力的であれ

Intelligent より知的であれ

Lively より躍動的であれ

Advanced より進歩的であれ

Creative より創造的であれ

III 自己評価の概要

■基準1 目的・目標の設定および入学者選抜について

学校の目的・目標について、入学前の高校生や保護者・関係者に対しては、オープンキャンパスや進学ガイダンス等で紹介したり、広報誌・学校パンフレット等への掲載や学校ホームページ等での公表により広く周知している。入学後においても新入生導入研修や朝礼・始業式・終業式等の機会に理事長・校長からの講話等を通じて説明したり、授業参観や後援会等を通じても学校方針の理解促進を図るなどの取り組みがなされている。

入学受入方針（アドミッションポリシー）についても同じく、学校ホームページや募集要項、学校パンフレット等により、また進学ガイダンスやオープンキャンパスにて学校職員が説明を行うなど周知・公表が図られている。また入学受入方針に沿った学生の受入については、「入学試験に関する規則」「入学試験に於ける“再面接”運営実施規程」等学校規程に従い適切に実施されている。

実入学者数について、これまで入学希望者の増加により定員増を繰り返してきたが、近年の少子化の影響もあって入学者数が減少し、本校も入学定員を下回るようになってきた。学生募集強化への取組みとしては、オープンキャンパス、見学相談会、高校バス見学会等への積極的な取組みや、教職員による進学ガイダンスへの積極参加や高校訪問の実施を徹底し「K O Z U」の情報発信に取り組んでいるが、未だ学生募集の状況は不十分である。今後も引続き積極的な広報活動を展開するとともに、カリキュラムの見直し等の教育改革など魅力ある学校づくりを進めていくことも今後の課題と考えている。

■基準2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性について

専修学校設置基準および関連諸法令の定める教員資格、教員数、授業時間数、校地、校舎面積、施設、設備等基準に適合している。教育カリキュラムに関しては、教育課程に定める科目については定められた基準に達しており加えて現場のニーズに則した学生に有益な授業を組みこんでいる。就職指導に関しては、就職指導室と教員団の連携により行き届いた教育を行っている。

■基準3 職業実践専門課程の認定要件の適合性について

教育課程編成委員会の委員構成に則り委員会の開催を受け教育の内容向上につながるべき為 美容・理容・エステティック関連企業である会社の協力によりインストラクターの派遣や各サロンからの現場経験の豊富なスタッフや入社間もないスタッフと距離感の違いはあれ豊富に人材の協力を得ることが出来、幅広く業界を見る事が出来ていると思われる。学校で学んだ授業に加え、深く理論の理解や技術の奥深い部分を体験することが出来興味の幅が広がり、自ら工夫することが出来るようになっている。これらの成果もありコンテスト等で必要な応用技術の追求の結果、外部のコンテスト上位に結び付け、業界から評価を得ることが出来ている。情報公開としてホームページに公表して分かりやすく公開されている。

■基準4 内部質保証について

自己評価および学校関係者評価は、適切かつ組織的に行っており、課題に関しては教育課程企画課等で見直し、外部関連業者からの協力、卒業生による協力も得てカリキュラムに反映させている。在校生、卒業生双方にとって知識・技術向上に役立っている。

教職員研修は、外部企業および支援団体等と連携した授業に必要な資格取得のための研修や業界のトレンドや動向などを吸収するため、研修会への参加、受講し、授業やキャリア教育指導、組織力向上に活かしている。また、授業カリキュラムやシラバス検討会を行い、授業内容の充実度を上げる工夫をしている。

■基準5 学修成果について

受験対策の工夫や、個々の学生の技術・成績などレベルに応じた指導、外部講師による授業など種々の取組により理・美容師資格試験合格率、在学中の資格取得状況、各種コンテスト受賞実績など多くの成果をあげている。学生からは、クラス担任との個別面談や学生アンケートなどを通じて授業評価・教員評価に関する意見を聴くことに努め、教育内容の改善につながるよう取組んでいる。後援会、高津美容研究会、OB会等の就職支援組織からは、それぞれによる定期的な勉強会、研修会、総会等を通じて様々な意見やアドバイスを受ける体制を整えており、学校教育に取り入れ学習成

果にもつながっている。修了後卒業生については、「サロン情報カルテ」を通じた卒業生の在籍確認等により在籍状況を調査したり、卒業生組織である「校友会」を通じた学校誌「ライラック新聞」などを通じて情報収集・情報発信を行っている。またOBによる「シャンプー授業」やオープンキャンパス「OB・OGデー」など学校教育への協力は、担任より学生の年齢に近いためOB・OGからの指導や表現は、わかりやすく理解しやすいと好評を得ている。